

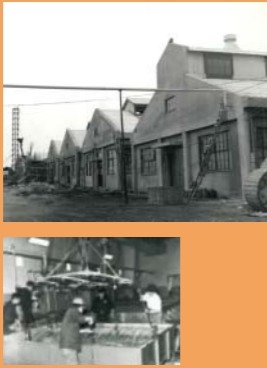
価値創造のあゆみ

社会課題解決に貢献する事業と製品

当社グループは1938年航空機用風防ガラスや航空機用塗料を主力製品とする生産会社として創立し、コーティング事業・塗料事業・化成品事業・電子材料事業・メディカル材料といったさまざまな分野において革新的な技術を開発し、高付加価値製品を創出してきました。2030年のありたい姿「共創×進化×化学の力で新たな価値を提供する」を目指しながら、CO₂排出量削減や環境負荷低減、人々の生活向上に繋がる技術・製品を創出し、社会課題の解決に貢献していきます。

藤倉化成の創業期

当社は創業(1938年)から化学メーカーとして革新的な技術開発に挑み、配合と重合を基盤技術に付加価値製品を展開し、時代・社会の要請に応えながら事業領域を拡大させてきました。85余年の当社の歴史をご紹介します。



社会情勢・時代背景

- 日中戦争から第二次世界大戦へ拡大
- 第二次世界大戦後、復興に向けた動き開始
- 1960年代以降、高度成長期に入る
- 社会インフラ整備による景気拡大へ

1938(創業)～1960年代 創業、事業の創出と成長

藤倉化成の事業・開発製品

- ▶ 創立時に製造していた「航空機用塗料」から塗料事業、「メタクリル酸エステル」から化成品事業誕生
- ▶ 日本電信電話公社(現NTT)との共同開発が起点となり電子材料事業誕生

- メタクリル酸樹脂
- ホルマール塗料
- アクリルラッカー塗料
- アクリルシラップ



- 導電性樹脂
- エポキシ樹脂系接着剤



- メタラックC
- プラスチック用コーティング材
- ハードコート
- 蒸着用塗料
- スウェード調塗料



社会情勢・時代背景

- 石油危機による経済混乱とインフレ、安定成長期への移行
- 地価・株価の急激な上昇
- 大量生産技術が発展し自動車・家電が普及

1970年代～1980年代 技術基盤の強化と成長

藤倉化成の事業・開発製品

- ▶ 佐野事業所開設、生産体制強化
- ▶ 国内事業拡大によりフジケミグループ会社を設立

- コピー用樹脂
- 粘接着剤



社会情勢・時代背景

- バブル崩壊や阪神・淡路大震災で社会不安が増加
- IT産業の飛躍的進歩。携帯電話やインターネットが普及
- 企業の海外展開、経済のグローバル化

1990年代～2000年代 開発強化・グループ拡大・成長

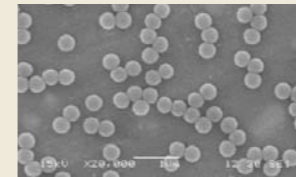
藤倉化成の事業・開発製品

- ▶ 鷺宮事業所、研究開発所の新設、研究開発の強化
- ▶ 米国、英国グループ会社とグローバル事業展開
- ▶ 微粒子合成技術を応用しメディカル材料部誕生

- 超艶消し・高触感塗料
- 携帯電話用コーティング材



- 診断薬用ラテックス



- 銀スルーホール
- メンブレインスイッチ



社会情勢・時代背景

- 東日本大震災や新型コロナウイルス感染症の拡大
- スマートフォン普及やAI、IoTの進展、デジタル化加速
- 気候変動対策の強化
- ジェンダー平等や多様性の重視

2010年代～2020年以降 グローバル推進、環境課題対応で成長

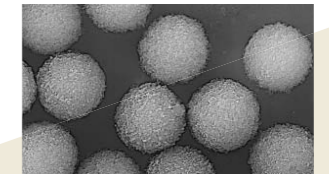
藤倉化成の事業・開発製品

- ▶ ASEANへ事業拡大、グローバル強化
- ▶ 環境対応製品の開発を推進

- 防曇塗料
- 水系塗料
- 環境対応コーティング材



- ウレタン樹脂
- バイオマス材料
- 高機能ラテックス



- デジタル対応製品



製品・技術の今後

環境負荷低減、エネルギー効率の向上、豊かな社会への貢献に繋がる技術・製品を創出していきます。

- バイオマス製品
- 高機能、高意匠製品
- 新規分野への参入
- グローバルビジネス強化
- 環境貢献製品
- DX社会対応製品
- 試薬の高品質化



価値創造モデル

藤倉化成グループの価値を生み出す源として

価値創造モデルとは、藤倉化成グループが事業活動を通してどのように社会的価値(社会への貢献)、経済的価値(利益創出)を創造し、持続的な成長を実現していくかを示したビジネスモデルです。当社グループは、自らが解決すべき社会課題を認識し、価値創造モデルに沿って事業を継続的に推進していきます。事業を通じて環境・社会課題の解決に貢献し続けると同時に、社会やステークホルダーへの価値提供を通じて、2030年のありたい姿の実現と企業価値向上に取り組みます。

